

令和7年度 十勝地域づくり連携会議

日時：令和7年5月26日（月）16:00～

場所：ホテルグランテラス帯広 2階プレミエ

1 開会

（帯広開発建設部 時岡部長）

本日は、お忙しい中、御参加いただきましてありがとうございます。進行を務めさせていただきます帯広開発建設部の時岡です。

本日の会議ですが、国及び道では、魅力ある地域社会の形成に向け、北海道総合開発計画及び北海道総合計画を策定しています。そして、道内各地域においても地域づくりの方向性を共有しながら地域の多様な主体が連携・協働して取組を進めているところであります、本会議ではその取組について関係機関と共有しながら、課題解決や地域の魅力向上について話し合う場として開催するものです。

本日は昨年度策定しました地域づくり推進ビジョンについて、進捗状況等の説明をさせていただきます。また、皆様にお集まりいただいた折角の機会ですので、十勝の課題解決や魅力づくりに向けて、話題提供をいただき意見交換をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

開会にあたりまして、十勝総合振興局 野口局長から御挨拶をお願いします。

2 挨拶

（十勝総合振興局 野口振興局長）

本日は大変お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

皆様におかれましては常日頃より十勝地域の活性化に向けた取組に多大なるご尽力を賜り、深く敬意と感謝を申し上げます。

本日の会議の趣旨ですが、先ほど時岡帯広開建部長からもあったとおり、十勝地域を巡っては今、世の中の不確実性、不安定性が増していく中で、人口減少や担い手不足、物価高など全国共通の課題はもとより、各地域で分野や程度を問わず独自の課題に直面していると認識しています。こうした課題に適切に対応していくには、現状を認識すること、それを関係者のみなさまと共有すること、また課題解決に向けた取組をより効果的に考えていく上で参考となる情報を収集すること、それらを踏まえて最適手段を選択し事案に応じて皆様と連携または一体となって進めていくことが必要と考えます。

本日の議題は、地域重点プロジェクトの推進状況の他に、話題提供として経済の状況の話、十勝港の話、全国和牛能力共進会北海道大会と併せて新しい家畜市場の話、NTT東日本の技術を活用した地域課題解決に向けた取組など、俯瞰した観点から、また個別の事案からも話題提供がされることになっております。

本日の会議が意見交換含め活発なものとなり、私たちの認識が深まって十勝がより一層元気になるような取組が、より効果的に図られるようになることを祈念して、ご挨拶にしたいと思います。本日はよろしくお願い申し上げます。

3 議題

(1) 十勝連携地域「地域づくり推進ビジョン」に係る地域重点プロジェクトの推進状況について

(帯広開発建設部 小野帯広開発建設部次長)

資料1－2 「十勝連携地域「地域づくり推進ビジョン」」のとおり説明

(十勝総合振興局 土井地域創生部長)

資料2 「十勝連携地域政策展開方針の推進状況について」のとおり説明

【質疑等 なし】

(2) 話題提供・意見交換

・十勝の経済動向と地域の振興について

(帯広財務事務所 福崎事務所長)

話題提供②「北海道の経済情勢等について」を使って説明

米国関税措置の影響として、自動車部品については、北海道が何か出来ると言うことは無く、アメリカの動きが見えてこないと今後の生産の動きが判明しないという現状となっています。関係者にヒアリングを行っていますが、やはり不透明です。生産ラインも大きく減らすことも話に出ていません。中長期的には販売価格をどうするかを踏まえながら考えいかなければならぬと、メーカーは言っていますので、影響が全くないとは言えません。さらに、プラスになる面は無いのが現状となっています。

ホタテへの影響は、5月に入りやや怪しくなってきました。元々のアメリカの物価上昇がある中で、輸入の扱う業者の関税がどっちに振れるか分からない、誰が負担するのかはつきりしないところがあり、先行きが不透明となっている話を聞きました。

賃上げの動向は、皆さん身近に感じていると思いますが、昨年までの実績から今年までの動向としては、全体としての賃上げは進んでいます。実力で賃上げができているのは、大企業中心となっています。中小企業は、大企業に引っ張られて業績を上げていますが、実情はギリギリという声が聞こえきます。有効求人倍率が高いことは、通常であれば“景気が良くて人手が足りない”というものがありますが、稚内や紋別、根室では、一定数の求人はあるが働く若者がいない上、働く世代が道央に流失しているため極端に数字が跳ね上がっています。道央圏以外では、帯広だけが急激な動きが無いことが分かります。帯広は農業、建設業を中心とした底堅い地域性から、現状では人材の流失は限定的と言えます。ただ、将来的な対策が非常に重要だと考えます。

賃上げした分を価格転嫁できているか、ということでは、大企業や中堅企業は製品価格に上乗せすることが可能ですが、中小零細企業についてはできません。アンケートでは中小企業のうち 29.1%が「全て転嫁できている」「おおむね転嫁できている」となっていますが、実態は、本当に悪いところは回答すらしてこないため、もっと低いのではと思います。

賃金引き上げ、人材確保の現状という点では、国からの支援がないとこれ以上耐えられない、という声が至るところで上がっています。当然そのような声を私たちは拾っていまして、この資料の内容については北海道財務局長から財務大臣に報告してもらっています。十勝・帯広については他の地域と動きが異なる点に关心を持ってもらっているところです。

十勝の地域の底堅さは非常にあると思いますが、人材流失が少ないだけであって、増える兆候はありません。現状を守ることは大事ですが、そのままだといずれ減少傾向になってしまうと思います。十勝は、農業、建設業はありますが、観光業が他の地域に比べると弱いと言われています。温泉や美味しい食べ物があるなど、魅力はありますが、単体でやれることは限界があります。観光資源が少ないととも観光業が弱い要因であるため、観光資源を作れば良いのではないかと思いますので、みんなで話し合うような場があればいいなと思います。観光は、直接的なプラスの面が見えにくいため、農業関係者は敬遠する方が多いです。ただ、地域外から入ってくるお金はものすごく経済効果は大きいです。人の動きが出ると、小売店が増えるなどして、地元の人の働く場所ができますので、好循環になります。それが観光で賑わっているところの強みであります。特に北海道新幹線の開業が 2038 年と言われています。十勝も 10 年後を見据えて、どのように人を誘導するのかを考えていかないと、ある意味もったいないです。良いものはたくさん持っているのに、その PR が他の観光で先行している地域に比べればやや弱いと思われます。予算の面もあるかもしれません、あるもので勝負するしかないので。たくさんの知恵を出して動いていかなければならぬなと思います。

新幹線が札幌まで繋がることの効果は皆さんが思っているよりも大きく、観光客はものすごく増えます。そして、札幌だけで抱えきれないキャパシティの観光客は周辺地域にも波及していくので、受け入れる方策を 10 年越しに考えていかなければなりません。

このような、堅い場だけではなく、オープンな場でも首長さんたちが顔を合わせて話し合っていただきたいと思います。

【意見等】

(帯広商工会議所 川田会頭)

懸念していることをお話しさせていただきます。概要版の公共エネルギーのところにある、再生エネルギーを促進しましょう、という話は、北海道庁も一生懸命動いていると思います。しかし、促進するためには大きな手落ちがあると思います。それは、送電

線の問題です。道東地域からの送電線は、厚真町、早来町に集結しますが、手一杯で電気をこれ以上持って行くことができません。送電網の増強には大きな費用と時間がかかります。この問題を全く無視することはできません。バイオガスのプラントができないのは、送電網の容量が一杯であることに起因します。電気の波を利用して、送電線を増強せずに運ぶこともわずかにやってはいますが、今後、エネルギーをどんどん作るとなると、そのエネルギーはどうやって運ぶのでしょうか。また、この地域でそんなにエネルギーが必要なのでしょうか。送電網の整備は、片側で電気を作るのであれば、もう片側でも絶対的にやらなくてはいけないことだと思いますので、十勝として全力をあげてやらないといけないと思っています。特に新得回りの送電網については、日高の山を越えるときに非常に滑りやすい御影地区の近いところを通ります。増強しながら、どう滑らなくするのか、直下型地震が起きたときに、道東がブラックアウトにならないようにやっていくことが急務だと考えています。

概要版の「再生エネルギーの促進」は、実態を捉えて十勝として要望していかなければならぬと思っています。電気を自分の地域で使うとなると、蓄電設備が必要になると思いますが、大きい費用がかかります。バイオガスプラントから電気を引っ張ってくる時に使う自営線も非常に費用がかかります。企業を田舎に呼ぶのであれば、このような設備についても考えなくてはいけないですし、公共事業投資の中で自営線を引っ張る資金を開発に出していくことなど、具体的な作戦を十勝として考えていかなければバイオガスプラントの進捗も進まないと思います。また、太陽光発電も満杯ですし、2010年代にフィット価格が落ちてきているので、しっかりとご認識いただき、十勝づくり連携会議で進めていただければありがたいと思います。

(北海道十勝管内商工会連合会 石橋会長)

先日開催された商工会の総会でも人口減少による人材不足が大きな話題になりました。首長さんにとっても大きな悩みだと思います。昨年、国交省で第9期北海道総合開発計画が策定されました。この計画は食、観光、脱炭素が大きなテーマとなっており、「食」は、私の住んでいる町は酪農家が多いですが、新規就農者が少ないという実態があります。「観光」は、バスの運転手の高齢化で人手がないので、将来的には外国人運転手も積極的に雇用していかなければならぬと思いました。「脱炭素」は、十勝管内の市町村のほとんどがゼロカーボン宣言をしていると思いますが、林業関係者は森林整備するための担い手がおらず大変という声が上がっています。そのため、私からは森林整備によるJ-クレジットの活用をお勧めします。J-クレジットは、森林整備して二酸化炭素を削減した分を大企業が買ってくれるもので、北海道にも要請しましたし、陸別町にも相談し、各町村が集まってJ-クレジットの勉強会を開いてくれました。今、3、4町村にJ-クレジットを活用していただいていると思いますが、もっと皆様には、担い手対策にまた森林振興の1つとして活用いただきたいと思います。

・十勝港の産直港湾認定について

(釧路開発建設部 藤田釧路開発建設部次長（港湾）)

話題提供②「十勝港の産直港湾認定等について」を使って説明

平成30年度から広尾町の十勝港と豊頃町の大津漁港については釧路開発建設部の方で整備を担当させていただいております。

昨年5月、十勝地域と首都圏を結んでおりますコンテナ船の新しい定期航路が就航しました。十勝が持っているポテンシャル、畑作、酪農関係の貨物、十勝で産出される物の取り扱いは、大いに期待されています。

しかし、いくつか課題もあります。例えば保税蔵置場用フェンスがない、保安用照明がないといった状況です。また、冷凍冷蔵用コンテナの電源がなく、今は発動発電機を使って非常に非効率な運用を行っている状況になっております。

広尾町の方で産直港湾の補助を使って今年度整備をしておりますので、この先まだ改善されることになります。

また、牛肉、豚肉を港で取り扱う場合、動物検疫をしなければならず、十勝港では現状できない状況にありましたが、広尾町で動物検疫所に相談いただいて、今年度からいくつかの方法を使うことにはなりますが、動物検疫ができるようになったと聞いております。是非、広尾町または十勝海運の方に相談いただければと思い紹介させていただきます。

最後、皆様へのお願いになりますが、今日皆様に一番言いたいところになります。残念なことに、コンテナ航路が出来たからといって、また産直港湾になったからと言って、自動的に貨物が集まるではなく地道に集めていくしかありません。特に今の課題は輸出品の確保になります。これは十勝港に限ったことではないのですが、入ってくる物はあっても出すものとして、新しい貨物を作り出すのが難しく片荷になってしまふ状況となっておりまして、そうなると非常に非効率でコスト高になってしまいます。

貨物が増えると船が大きくなることで、海上の運行が安定しコストが下がることが容易に想定されます。また、十勝から出る貨物が増えて行けば片荷が解消されて輸送コストも削減されていきます。

さらに、一番ここが大事ですが、貨物があれば、この航路を維持していくことが可能となります。2024年問題があつて今はなんとか長距離の輸送ができている状況にありますが、いずれドライバー不足などで今の様に運べなくなる時が来ます。そのときに、十勝でいろんな動きがあるので、そういう動きと連携しつつ、近い将来十勝港に航路があつて良かったと言えるようにしていきたいと思っておりますので、是非皆様のお力添えをお願いしたいと思います。また、こういう機会があればPRさせてい

ただきたいと思っております。

全国には1000港弱の港がありまして、その中で重要港湾以上の港は125港あります。その125港の港湾管理所の中で、町が管理しているのは広尾町だけになりますので、是非皆様で応援していただければと思います。

【意見等】

(広尾町 田中町長)

十勝港は十勝の農業を下支えする港でありまして、そのため農業関連施設の事業がここに張り付いている訳であります。十勝の農業は年々生産額を上げている訳ではありますが、ここを支えている港として私どもは十勝港を自負しているところでございます。

農家の皆さんがあつた物を確実に消費地に届けるためには、十勝港であれば国内だけではなく、横浜を経由して海外にも輸出が出来ます。昨年は川西農協の長芋、幕別産の長芋も実際に海外に輸出した実績がございます。そう言った実績もありますし、これからいろいろなものをトライアルしていただいて、試しにこういったものはどうだろうか、など問い合わせいただければ大変ありがたいと思います。

これから十勝港の役割はますます重要になってくると考えております。まさに名前のとおり広尾港ではなく十勝港というところで、その役割を果たしていきたいと考えております。

今日は、各市町村長の皆様、農業関係も含めて各団体の皆様がお越しになっておりますが、様々な機会でこういった取組を十勝港、広尾町がしていることを持ち帰っていただいて、農協、各事業所の皆様にも、十勝港を使って何か出せるものがないか話題にあげていただければと考えております。皆様方のお力添えをどうかよろしくお願ひ申し上げます。

帶広開発建設部、釧路開発建設部及び十勝総合振興局の皆様のご協力をいただきながら、オール十勝で十勝港を応援いただければと思っております。

・ホクレン十勝地区家畜市場・第13回全国和牛能力共進会北海道大会について

(音更町 小野町長)

話題提供③「ホクレン十勝地区家畜市場及び全国和牛能力共進会北海道大会」を使って説明

家畜市場については、皆さんご承知かと思いますが、40年前までは大樹町に南十勝市場、そして帶広市に北十勝市場と2つの市場がありました。とかち帯広空港ができるから、40分以内で行けるということで十勝の中心部にあった今の旧市場の場所に新しくできたわけであります。さらに十勝が畜産基地になるまでは、農家の庭先で牛を買い

付けしていたという経過が 40 年ほど前までありました。そこから市場の大規模化が全国的に起こったことで、現在は庭先で牛を買い付けるのではなく、良質な乳牛・肉牛を市場でお客さんに買ってもらう時代に入ったわけであります。

令和 5 年度の調査の結果、全国の牛の取扱頭数は、肉牛は 260 万頭、乳牛は 136 万頭でした。令和 6 年度の十勝家畜市場の取扱頭数は、肉牛・乳牛・馬も併せて 8 万 5 千頭、売上げは 350 億のことでした。道内に 7 カ所あるホクレン家畜市場では最大規模であり、新しい市場は道東道、音更寄りの IC の南側に移転しました。

令和 7 年 3 月 27 日に竣工、4 月 8 日には初市場ということで初競りが行われました。新市場は旧施設の約 1.8 倍の広さです。牛を運ぶ人の便利さを改善するため、自走式の係留レーンが延長されつなぎ場も増えたことにより以前に比べ牛の積み下ろしが大変簡易な状況になりました。さらに競り場、事務所、販売牛舎、購買牛舎、パドックなどの各牛舎が同じ建物内に配置されているという利便性も向上したところであります。取扱頭数については、1 日あたり 1400 頭の受け入れが可能になったことで全国最大規模かつ東洋一ということで、今後も世界規模という形で動いていくと思います。市場の移転新築は、北海道、特に十勝での酪農、畜産の経営環境が厳しい中で、「農と食の未来を担う」というホクレンさんの決意の表れだと思っています。

乳牛、肉牛の安定供給、そして流通の家畜供給拠点として十勝を全国に発信すると共に、これから酪農、畜産産業の発展にこれからもさらに寄与するとの確信を持っています。

北海道の肉用牛の農業産出額は、令和 5 年に初めて鹿児島県を抜いて全国一位になりました。新たな家畜市場がこれからの北海道における和牛生産を牽引する基盤となっていくことになるかと思います。

また、この家畜市場は令和 9 年に開催される全国和牛能力共進会北海道大会のさらに追い風になっていくものでありますし、十勝の農業、そして畜産業発展の未来へと繋がる大きな力になるものと考えています。

その全国和牛能力共進会北海道大会についてです。帯広市は肉牛の部ということで、肉質を審査するエリアであり、音更町は種牛の部で姿形を競うコンテストのエリアです。この大会まであと 2 年ということで開発建設部をはじめ、特に野口振興局長と相談させていただいている。大会の実行委員会長が北海道知事であり、農業関係団体の中央会とホクレンが副会長、帯広市米沢市長と私も副会長となっております。

そして北海道庁本庁においても準備室ができたことについても大変ありがとうございます。感謝申し上げます。さらに 5 月 21 日には、帯広商工会議所においても経済会に対し説明会を開いていただいたことに対しても感謝申し上げます。

この大会の北海道開催は初めてとなります。5 日間の来場者数は約 38 万人と予測されています。宮城県開催時には約 41 万 7,000 人が来場しているため、相当の準備をする必要があります。

今大会は、十勝はもとより釧路、網走、北見、旭川、札幌など全道一円に影響を及ぼ

すものと考えます。音更町は今大会を通して町を知ってもらうこと、そして町を満喫してもらい再度訪れたいと思ってもらうよう、音更町のみならず十勝全体となってその機運を高めるよう官民一体で取り組みたいという主旨で今回お話させていただきました。

令和9年7月には国際農業機械展、8月には当大会、9月にラリージャパン北海道大会、十勝マルシェが開催されるなど、令和9年夏を通して日本全国に十勝を知っていたく絶好の機会になっています。日本一の取引量を誇るホクレンの新しい家畜市場と、和牛の日本一を決める全国和牛能力共進会北海道大会だけでなく、その他のイベントの開催が、十勝全体の観光業、宿泊業などの地域経済の活性化に繋がり、ひいては十勝全体に好循環を波及するものと期待しています。どうか一丸となって皆さんと邁進していくたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(十勝総合振興局 野口振興局長)

話題提供③（参考）「第13回全国和牛能力共進会北海道大会オール十勝で盛り上げよう！」（案）を使って説明

PR 資材については画像データがありますので、ぜひ PR 資材掲示にご活用ください。また、日々の食育の取組で和牛をトピックとしていくなどご協力をお願ひいたします。さらに振興局としては取組の PR を行い、今年度から実行委員会の事務局に参加することとしました。交通の足、宿泊場所などがかなりキャパオーバーの中で、どのようにやりくりするのかといったことも重要な課題になっています。そういったところへ振興局が入り、スムーズな開催に向けて尽力していきたいと思います。今後適宜準備作業や進捗状況を報告させていただきます。さらに進捗に応じてご提案などさせていただくことがあります、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

【意見等】

(帯広市 米沢市長)

ただ今小野町長からご説明があった通りであります、音更町とともに帯広市も開催地であります。多少重複しますが、この大会については、十勝の和牛生産農家の生産意欲、生産技術を高めていくこと、そして和牛ブランドの向上に繋がる重要な大会であると認識しています。

さらに来場者数が約 38 万人と予想されているということで、お迎えするに当たっての交通機関、宿泊施設含め気合いを入れていかなければならないと思っております。和牛の消費拡大を通じた十勝の畜産振興はもとより、さらに広く十勝の豊かな食、農業、観光の魅力を全国に発信する絶好のチャンスと捉えています。大会の成功に向けて、音更町はじめ関係機関の皆様と連携しながらオール十勝で万全の準備を進めていきたい

と考えています。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

・NTT 東日本の地域ソリューションの取組について

(東日本電信電話(株)北海道東支店 秋田支店長)

話題提供④「ソリューションを活用したまちづくり」を使って説明

北海道はポテンシャルが高いですが、人口や生産空間が分散していて、とても非効率な土地です。それに対してICTやテクノロジーを活用しどのように取り組んでいくのか、情報通信業としての立場でお話させていただきます。

自動運転は、今は、車両が白線や画像検知から自ら賢くなつて動いていますが、私たちは情報通信業ですので、さらに道路を賢くする、空間を賢くするというところでトヨタさんと一緒に考えているところです。

交通の全体最適制御技術では、道路の情報を全てデジタル上に仮想空間につくり、その中で車両や人がどう動くかを可視化や予測することで、事故なし遅延なし滞留なしといった交通システムができるなどを実験し、疑似環境や机上検討では上手くいったところです。

このように考えると、交通や人、物の流れや、十勝でつくられた農畜産物をどう運んでいくべきか、といったことを仮想空間で最適化を図っていくことが出来つつあるということです。

再生エネルギーは、需要がないと余らせてしまうといったところがありますが、一方、北海道は再生エネルギーのポテンシャルがとても高い土地です。蓄電という考え方も大切です。NTTには157の局舎があり、たとえばそこを蓄電ビルにして何かお役立てできないか、と考えています。十勝の再生可能エネルギーは、太陽光のポテンシャルが最も高いです。その余った電力を我々が一度お預かりして、みなさんが使いたいタイミングで提供するということができないか、と考えているところです。

データセンター(以下、DC)は、千葉や大阪等首都圏に出来てきています。電気を多く必要とするため、最適な立地についてワットビット連携の観点から議論されています。

我々のIOWNは始まったばかりで、本格展開は今年の秋くらいに北海道で提供開始する予定です。これから生成AIが普及していくと、まずはDCが足りない。そしてDCの最適な立地はどこだろうとなると、千歳に集中するだけでなく、十勝もあるのかもしれないと考えています。

個人的な見解も含みますが、仮に、我々NTTが、このIOWNを十勝に持ってくることができ、DCが十勝にできれば、十勝に全世界のデータを引っ張って来ることができるのでないか、ということです。あわせて、こういったDCを使いたい需要家も一緒に連れてこなくてはいけません。

インターネットがIP化によって効率化できたように、モノの流れも効率的に運ぶべきであって、その実現のためには物流を可視化したりコントロールしたり、物流データがどんどんDCに蓄積されることになってくるのではと考えられます。十勝港も上手く活用することに寄与できるのではないかと考えています。

【意見等】

(幕別町 飯田町長)

帯広商工会議所の川田会頭からもお話ありましたが、十勝から道央圏への送電線網が脆弱で、これをなんとかしなくてはいくら発電しても有効に使うことはできないと思っていました。

DC を十勝につくったらどうかと考えていますが、そうすると、十勝で地産地消が可能であるし、海外に持つて行くとなれば、十勝港から海底ケーブルを繋げると良いのではと思いました。

いずれにしてもお金がかかるのですが、十勝で発電をして十勝で使える形になれば、今後川西地区でも流通基地をつくろうとしているので、その中で DC を持ってきてそこで地産地消できないのかと思いました。

(東日本電信電話(株)北海道東支店 秋田支店長)

DC のように再生エネルギーの需要があると、送電網の課題はかなり縮小化される訳で、DC で使う電源の部分を地産地消するということがひとつ、大いに可能性があるところと私も思っています。

4 閉会

(十勝総合振興局 野口振興局長)

長時間に渡り中身の濃い意見交換をありがとうございます。まずは福崎財務事務所長、藤田釧路開発建設部次長、小野町長、米沢市長、秋田支店長、貴重なお話ありがとうございました。いくつか感想を交えつつ、挨拶させていただきます。

少し前まではニーズに合わせて商品・サービスを作らなければならないといった時代でしたが、今は十勝にポテンシャルがあるために、求められることが多く、逆に供給が追いついていないことが現状ではないかと思います。供給を制限している要因は人手不足があげられます。解決の方法としては秋田支店長のお話にもありましたが、技術で解決できるところは技術で解決する、そして人で補わなければならない場面は人で補うということだと思います。

また、人も十勝管内だけでなく外から呼んでくることも必要なのではないかと思いました。企業誘致だけでなく人もセットで呼び込むといったことになります。こういった際に賃金格差という都会と地方の差はあるのですが、十勝にしかない住環境の魅力などを訴求しながら誘致していくことが必要だと思いました。

環境面について、今後十勝での持続的な社会を目指す上では電力のベースとしてバイオマスを活用すること、つまり農業の堆肥や家畜糞尿など地域の有機資源を地域で循環させることが重要であります。しかし地域で資源を活用していくとなると、どうしてもコスト面は外部から調達した方が安いということが現状になっています。この問題については技術開発をしつつ、どうしてもコスト面の問題が超えられないしたら、資源は

どうしていくべきかということを国民的な議論、オールジャパンで議論していき施策を考えていくことが必要だと考えます。

十勝港の有効活用については、十勝の発展のために重要であります。今後有効に活用していくためには一般論ではダメで、物流量をあげるためには、物流の絶対量を伸ばすことと、例えば苫小牧航路や釧路航路の分を代替で持って行くという考え方の2つがあると思います。それを考えていくには、今ある物流はどのようなものがどのような形態（コンテナ船かRORO船かバルク船か）なのかという物流の実態をしっかりと把握した上で、代替できるものの目星をつけて議論していくことが有効活用していくことへの近道になるのではないかと考えます。今後担当者同士の勉強会も必要になると思いました。

十勝の肉牛の関係について小野町長のお話にもありました、現在九州の繁殖農家は高齢化により供給量が減少していることから北海道に対する期待がますます大きくなっています。今後も十勝が食を支える立場であるということも踏まえて肉牛が大事になります。畑作、畜産のバランスを保ちながら持続可能な農業を展開していくことは十勝が今後も続けていかなければならない課題でありますので、令和9年の全国和牛能力共進会北海道大会しかり、それをきっかけとした畜産、十勝農業の発展のためにみんなで頑張っていきたいと思っております。

本日は非常に中身の濃い意見交換をさせていただきました。引き続き皆様と連携しながら取り組んで参りたいと思います。ありがとうございました。